

各 位

会 社 名 株式会社 クロニクル
 代 表 者 名 代表取締役社長 堀 達 夫
 (JASDAQ・コード番号： 9822)
 問い合わせ先 常務取締役経営企画本部長 久保田 峰夫
 電 話 番 号 03-5771-1200 (代 表)

為替差益、営業外損失、特別損失の発生及び平成 24 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間（連結）

の実績値と業績予想との差異及び通期（連結）の業績予想の修正について

当社は、平成 24 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間において為替差益、営業外損失、特別損失を計上することといたしましたのでお知らせいたします。また、それに伴い平成 23 年 11 月 18 日に公表しました平成 24 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間（連結）の実績値と業績予想との差異及び通期（連結）の業績予想の修正についてお知らせいたします。

記

1. 為替差益の発生及びその内容

平成24年9月期第2四半期連結累計期間において、急激な為替相場の変動の影響により為替差益47百万円（うち第1四半期に9百万円を計上済）を営業外収益に計上いたします。
 なお、上記の金額は平成24年9月期第2四半期末時点の為替相場による為替差益であり、今後の為替相場の状況により為替差損の金額は変動いたします。

2. 連結の営業外損失の発生及びその内容

平成 24 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間において、貸倒実績率の増加により、貸倒引当金の繰入 57 百万円（うち第 1 四半期に 22 百万円を計上済）を計上したこと等により連結の営業外費用として 58 百万円を計上することにいたしました。

3. 特別損失の発生及びその内容

連結の特別損失の発生について

平成 24 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間において、当社主幹事証券会社である丸大証券株式会社が平成 24 年 3 月 26 日に破産手続きが開始された事に伴い、当社が保有しておりました同社の株式に対し 26 百万円の投資有価証券評価損の計上することとしたほか、営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなる資産グループについて減損損失を認識したため、減損損失 31 百万円（うち第 1 四半期に 19 百万円を計上済）等により 57 百万円を計上することといたしました。

3. 連結業績予想と実績値との差異

①平成 24 年 9 月期第 2 四半期累計（連結）の業績予想の修正（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 23 年 11 月 18 日発表)	百万円 1,200	百万円 △250	百万円 △250	百万円 △250	円 銭 △5.20
今回実績値(B)	1,079	△330	△333	△401	△7.67
差異額(B-A)	△121	△80	△83	△151	—
増減率(%)	△10.1	—	—	—	—
前期実績(平成 24 年 3 月 31 日)	1,547	△359	△352	△415	△8.73

(注) 当社は、平成 23 年 12 月 26 日に第 2 回新株予約権を発行しており、平成 23 年 12 月 29 日にその一部が行使されておりますので、今回実績値の 1 株当たり四半期純利益の算出は増資後の株式数にて算出しております。

②平成24年9月期 通期（連結）の業績予想の修正（平成23年10月1日～平成24年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A) (平成23年11月18日発表)	百万円 2,950	百万円 25	百万円 20	百万円 20	円 銭 0.41
今回発表予想(B)	2,950	25	△50	△100	△1.91
増減額(B-A)	—	—	△70	△120	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
前期実績(平成23年9月30日)	3,509	△648	△690	△893	△29.44

(注) 当社は、平成23年12月26日に第2回新株予約権を発行しており、平成23年12月29日にその一部が行使されておりますので、今回実績値の1株当たり当期純利益の算出は増資後の株式数にて算出しております。

4. 業績予想との差異が生じた理由

セグメント別 第2四半期連結累計期間予想値との差異（平成23年10月1日～平成24年3月31日）

事業種別	当初予想値（百万円）	実績値（百万円）	増減率（%）
宝飾品事業	400	327	△18.3
投資事業	0	2	—
WEB情報事業	600	616	2.6
流通サービス関連事業	150	129	△14.0
リサイクル事業	50	2	△96.0
合計	1,200	1,079	△10.1

今回の業績予想の差異に関して大きな変動要素として、宝飾品事業並びにWEB情報事業における収益性の低下及び営業外費用及び特別損失の計上により各利益への影響があります。

現在の日本経済における経済環境は、震災影響による低迷状況を完全には脱しておらず厳しい状況が続いております。

当社と致しましては、グループ事業全体の拡大及び新たな販売ルートへの拡大に努めて参りました。

しかしながら、昨年発生いたしました東日本大震災の影響より、徐々に回復しつつあるものの、宝飾品事業の売上の低迷や、さらには、流通サービス関連事業の東北地区の顧客の激減、取引先の営業時間の短縮、リサイクル事業の新規展開の遅延により、売上高は確保出来るものの収益面におきましては多大な影響を受けざるを得ない結果となりました。

「宝飾品事業」

現在、当社グループでは株式会社アメイジングバリューのリセール・オークション事業と株式会社ドゥーズによる正規品販売事業及びジュエリー販売事業への住み分けを明確にし、国内外へ積極的展開を行っております。宝飾品事業に関しましては、国内小売がわずかながらも回復基調に推移し始めている状況であり、前年の実績を参考にしつつ、販売実績の進捗状況を加味しながら業績予想の策定にあたっており、前連結会計年度の状況と比較し回復基調にあると予想し、平成24年9月期第2四半期連結累計期間400百万円、通期900百万円と予想しておりました。

しかしながら依然とした消費者の購買手控えが続き、当初予定より売上高におきましては予想を下回り、売上高は18.3%下回る327百万円に止まりました。

また、リセール・オークション事業における商品評価損の売上原価組み入れ等により当初の予定より営業利益は伸びませんでした。

さらに、当初予定しておりました新株予約券行使による資金調達にて、展開する予定でありました多店舗展開の計画のリスケジュールの影響を受けた結果、当初の収益計画と実績の差異につながった事も要因となっております。

今後につきましては、厳しい状況は続くと予想されるものの、宝飾品事業の店舗展開により業績の回復を目指します。

「投資事業」

投資事業につきましては、前連結会計年度と同様に推移すると判断し、第2四半期連結累計期間0百万円、通期50百万円と予想しておりました。投資事業は、当初予想と比較して大きな変動はありませんでした。

「WEB情報事業」

WEB情報事業につきましては、前年より厳しい状況になると予想した結果、第2四半期連結累計期間600百万円、通期1,400百万円と予想致しました。

WEB情報事業は、当初予想と比較して大きな変動はありませんでした。

「流通サービス関連事業」

流通サービス関連事業におきましては、第2四半期連結累計期間150百万円、通期600百万円と予想しておりました。第2四半期連結累計期間におきましては当初の予想と大きな変動は有りませんでした。

「リサイクル事業」

リサイクル事業の中心である金等の買い取りビジネスを中心に行う「黄金市場」におきましてはフランチャイズ展開の計画しておりました中で東北エリアにおいての、フランチャイズ出店による業績拡大の白紙状態が継続し、当初の計画との間に大きなズレが生じたため第2四半期連結累計期間50百万円、通期600百万円と予想して今後の収益計画の見直しを余儀なくされた状況となります。

以上のように第2四半期連結累計期間の売上高の減少に加え利益率の低下及び売上原価の増加、営業外損失及び特別損失の計上が各利益へ影響したことが修正理由であります。

5. 通期の業績予想の修正理由

通期におきましても、第2四半期連結累計期間までと同様に厳しい状況となると考えられます。

セグメント別 通期（連結）売上予想値（平成23年10月1日～平成24年9月30日）

事業種別	当初予想値（百万円）	今回予想値（百万円）	増減率（%）
宝飾品事業	900	900	—
投資事業	10	10	—
WEB情報事業	1,400	1,400	—
流通サービス関連事業	600	600	—
リサイクル事業	40	40	—
合計	2,950	2,950	—

「宝飾品事業」

宝飾品事業におきましては、第2四半期連結累計期間までの影響は受けざるを得ない状況となると考えられますが、今後の多店舗展開等の実施及び中国宝飾品市場でのビジネス展開により業績の回復を行うことを見込んでおり今後の取扱商品の見直し及び販売チャンネルの変更等を行うことにより売上高は当初の予想数値通り900百万円と判断致しました。

「投資事業」

投資事業につきましては、当初の予想数値である50百万円に変更はありません。

「WEB情報事業」

WEB情報事業におきましては、当初の予想数値である1,400百万円に変更はありません。

「流通サービス関連事業」

流通サービス関連事業におきましては、第2四半期連結累計期間においてベルモアカフェとの業務契約解消となりましたが、今後流通サービス関連事業において新たな事業の展開を策定しており当初の予想数値である600百万円に変更はありません。

「リサイクル事業」

リサイクル事業におきましては、下期において事業展開が実行される事が予想されます。
売上高におきましては当初の想数値である40百万円に変更はありません。

以上が通期連結における売上高の予想であり、売上高に修正はないものの第2四半期連結累計期間における営業外費用及び特別損失の計上により各利益への影響も加味したことが業績予想の修正に至った大きな理由であります。

なお、本資料に記載の予想数値は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上